

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成28年 6月21日更新

事務事業名		コミュニティ指導員配置事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局	課長名	岐部則夫
	施策	21	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	武田直子
	施策の柱	66	学習の啓発				所属班	生涯学習班	(内線)	2523
予算科目		会計一般	款10	項5	目1	事業連番10764	根拠法令	合志市コミュニティ指導員設置規則 成果優先度評価結果：⑩ コスト削減優先度評価結果：⑥		
終了、開始年度		☐ 27年度で終了 ☐ 27年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	コミュニティにおける生涯学習の振興を図るため、コミュニティ指導員5名を各コミュニティ施設に1名ずつ配置する。平成7年4月に、旧西合志町のコミュニティ活動支援のため、5つの各コミュニティに配置された。当初1コミュニティに1名の配置であったが、須屋地区の人口が格段に多く、生涯学習活動のニーズに応えるべく妙泉寺体育館の建設もあり、学習講座数が増加する須屋地域のコミュニティには平成18年度から2名配置となった。しかし、機構改革、班制の施行により、妙泉体育館の管理はスポーツの部門とすることになり、須屋コミュニティ指導員の業務の一部が縮小することになったため、20年度からは指導員配置を1名に戻すことになった。
【業務の流れ】	旧西合志地域のコミュニティ単位での各種事業を企画立案し、コミュニティ運営委員と協力しながら、地域の総合的な公民館活動の振興にあたる。
【主な予算費目】	報酬・報償費
【意見や要望】	コミュニティ活動の拠点施設のうち、施設が手狭で老朽化している黒石、野々島の施設改善を要望する声が地域住民から多い。 また、旧合志地域にはコミュニティの仕組みが無いので、その点について区長会より意見が上がっている。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動)(DO)		28年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
① 須屋・黒石・中央・野々島・合生のコミュニティに各1名の指導員を配置した。 ② 各指導員は、コミュニティ活動の企画立案、各講座への指導にあたった。		① 須屋・黒石・中央・野々島・合生のコミュニティに各1名の指導員を配置する。 ② 各指導員は、社会教育指導員と連携し、コミュニティ活動の企画立案、各講座への指導にあたる。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 指導助言のための勤務日数	日		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民(各コミュニティ活動参加者)	人	→ ア コミュニティ構成区域人口	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	
各コミュニティ活動に参加する市民が、より良い活動ができるようになる。	団体	→ ア コミュニティ自主団体数	
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
各コミュニティ活動をより活発に行えた実績数を設定した。			全体計画
			～ 年度
			0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	25年度 実績(決算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	29年度 予定	30年度 見込	31年度 見込
① 活動指標	ア	日	947	950	900	780	900	900	900	900
② 対象指標	ア	人	32,945	33,007	33,200	0	33,400	33,600	33,800	34,000
③ 成果指標	ア	団体	151	147	158	158	160	162	164	166
投資 入費 量	事業 費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	5,150	5,155	5,155	5,155	5,155	5,155	5,155
	人件 費	(A) 事業費計	千円	5,150	5,155	5,155	5,155	5,155	5,155	5,155
		(A)のうち指定経費	千円	5,130	5,130	5,130	5,130	0	5,130	5,130
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	2	2	1	1	0	0	0
費用	人件 費	延べ業務時間	時間	60	60	12	350	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	239	2,370	47	1,299	0	0	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	5,389	7,525	5,202	6,454	5,155	5,155	5,155

事務事業名	コミュニティ指導員配置事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	---------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 中央コミュニティ、須屋コミュニティにおいて新たな講座が開設されたため、前年と比べ増加したため達成
	②28年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 須屋コミュニティ及び中央コミュニティにおいては新たに自主講座ができつつある。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 平成22年度より各コミュニティの開講式を合同で行うなど、コミュニティの活動を全体で盛り上げようという機運が高まっている。 まだコミュニティの活動に参加していない住民が多数いると考えられるので、コミュニティ運営委員とコミュニティ指導員が協力し、住民が自ら参加しやすく、活動できるコミュニティづくりを進める必要がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 当事業はコミュニティ活動を支援する根幹であり、統廃合は難しい。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 非常勤職員の報酬により事業を行っており、20年度以降須屋地域の指導員を1名削減し、各コミュニティに1名の指導員は必要最小限の職員数であるため、これ以上の削減は困難である。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 非常勤職員は必要最小限の職員数であるため、これ以上の削減は困難である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 指導員は、コミュニティ活動全体のために業務を行っているので、公平公正を旨としている。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 コミュニティ指導員の仕事はコミュニティ活動を支援するために最低限の仕事であるため、適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

コミュニティ主催講座や子ども講座、グラウンドゴルフ大会やカローリング大会など開催し、おおむね各コミュニティ事業の推進を図ることができた。
 しかし、旧合志地域にはコミュニティが無い場合、その点について区長会より意見があった。すぐにどちらが良いという結論は出せないが、今後は研究を行い、検討をしなければならない。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策